

「コーポレートマーケティング」授業に富士フィルム(株)常勤監査役の川崎素子さんのご講義についてのご報告(青木良和)

- 川崎さんからは、まず初めに富士フィルム(株)の事業概要と富士フィルム(株)の歴史について話していただきました。

富士フィルム(株)は、国産の写真フィルムの製造を目指して1934年に設立され、写真用フィルム、カメラ、プリント、レントゲンフィルム、印刷用フィルム、磁気テープといった事業で順調に事業を拡大してきたのですが、2000年前後にデジタル化による写真フィルム事業の急激な需要減退にぶつかりました。写真フィルム事業の急激な衰退は、「トヨタで車事業がなくなったらどうなるか」ということにも匹敵する大きな変化でした。富士フィルム(株)が、長年、目標としてきた世界のイーストマンコダック社も、この衝撃に耐えられず倒産してしまいました。富士フィルム(株)がこのデジタル化の波、急速な需要減退をどう乗り越えたか？ということ、皆さんに是非学んでほしいと思います。

ここで、富士フィルム(株)がやったことは、技術資源を生かす新たな分野を探索するため、技術と市場を既存・新規の4象限で検討し、既存の技術で新しい市場に出ていけないか(フィルムのコラーゲン技術を応用した化粧品への進出、フィルムの超薄膜技術を応用した液晶ディスプレイの保護フィルム)、既存の市場で新しい技術を開発(レントゲン分野では内視鏡、超音波診断、病院内の画像ネットワークや画像診断)、新規市場で新技術のチャレンジ(医薬品の開発)、そして、既存分野・既存市場では、徹底的な構造改革を断行し、チェキ等の継続的に利益が出せる組織に再構築します。そして、当社資産、技術で不足する部分を戦略的なM&Aを実施して事業を拡大し、注力分野をヘルスケア、高機能材料に設定して写真・イメージング分野を主力とする企業から複数の領域で成長する企業に大きく変革していきます。

- 川崎さんの大学時代、そして、入社後についてのお話は次の通りでした。

大学では数学を専攻、コンピューターを活かすか、教職につくか、働きたいと考えていました。

富士フィルム(株)では、様々な仕事をさせて頂きましたが、社内システム部では、まず工場の生産計画をシステム化する仕事に携わり、自分のやったことが形になり、人に役立つことを学びました。その後「新規事業探索プロジェクト」に参画し、商品の営業、開発を目の当たりにし、商品に直接関わる面白さを実感しました。商品開発部門では、ユーザーインターフェースソフトの開発を担当し、自分で新たな技術を習得し、開発することを経験。自立心が高まると同時に、営業担当者と共に顧客を訪問、最先端の社会の動きを把握できる機会を得て、社会で働いていることを実感しました。社内システム部門では、社内のメールや掲示板などのグループウェアの導入を担当し、社内の様々な意見をもつ部門との調整、説得に奔走しました。

2014年にCSR推進部環境品質マネジメント部長となり、まさかの部門長で部下の信頼が得られるか悩みましたが、部下と適性を活かして部門としての成果を上げ、メンバーのやりがいと成長に尽くせたと思っています。会社では、様々な業務を通じ、多くのことを学び考える事が出来ました。会社、社会は、様々な人の力で成り立っていて、どんなに大きくても人が回しているものです。遠いものではなく、自分が関わり、動かせる世界だと思います。

● **最後に学生時代にやってほしいことについて、次のように語られました。**

一つ目は「勉強」です。大学でこれを学んだ、獲得したと言えるものをつくるのが、社会に出てすぐに役立つなくても自信になると思います。二つ目は「英語」です。これからは日本だけでなく世界を相手にすべきです。英語は身につければ一生の財産となり、様々な人を直接話すことは、多様な考えやカルチャーを理解する助けとなります。

そして「自分を大切に」ということを心掛けてほしいと思います。人生においていつも自分が主人公であり、甘やかすことも、叱咤激励するのも自分次第です。頑張ったことも、怠けたことも自分が一番よく知っています。人生には山谷あり、いい時、悪い時に何をするか、長い目、客観的に自分をみることも大切だと思います。そして、感じる心を大切にしてください。好き嫌いは大切な感情です。理屈で人は動きません。いつもチャレンジする気持ちを忘れずにいてください。

印刷技術の開発により書籍が一般化し、インターネット技術の進展により、グローバルな情報の入手・発信が可能となり、そして今、AI技術の発展により高度な専門家の経験・知識が応用でき、知識・情報は一部の人の特権から一般化・大衆化がさらに進んでいます。皆さんも、どうか自分自身の感性と行動力を磨き、そのチャンスを活かしてください。